令和５年度校内研究テーマ

グローカルリーダーに求められる確かな学力の育成～情報活用能力の育成～（1年次）

まとめ：教師の情報活用能力と研究方法の展開

大分大学教育学部附属小学校　R6.2.27　研究主任 甲斐

テーマ設定の理由

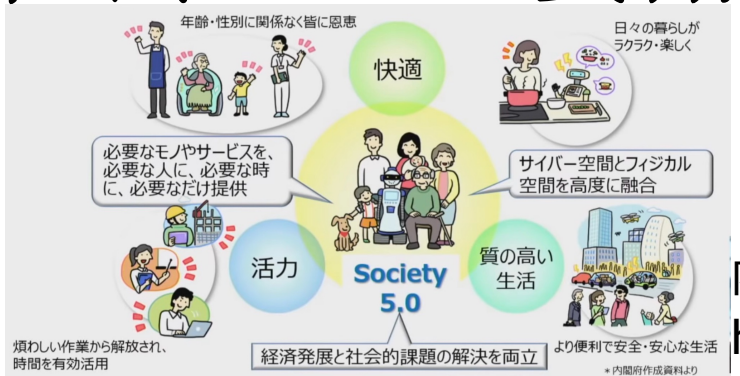
令和５年度校内研究テーマ

グローカルリーダーに求められる確かな学力の育成～情報活用能力の育成～（1年次）

【学校教育目標】

グローカルリーダー（Think　globally, act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち，人や社会と豊かに関わり，
自己を磨き合う子どもの育成～

【社会からの要請】



内閣府
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

【児童の実態】

○R4年度全国学力状況調査
- 知・技　　…国語89.9%、算数84.8%
- 思・判・表…国語79.9%、算数78.5%

「小学校学習指導要領解説　総則編ｐ48」

（１）学習の基盤となる資質・能力（第１章第２の２の(1)）

イ　情報活用能力

情報活用能力は，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。将来の予測が難しい社会において，情報を主体的に捉えながら，何が重要かを主体的に考え，見いだした情報を活用しながら他者と協働し，新たな価値の創造に挑んでいくためには，情報活用能力の育成が重要となる。また，情報技術は人々の生活にますます身近なものとなっていくと考えられるが，そうした情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくことも重要となる。

イ　情報活用能力

　情報活用能力は，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。

情報活用能力

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」し，「Ⅱ問題を解決」する

プロセスで育成される

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」するプロセス「めあて・課題の提示」

①本時のめあてをもつ

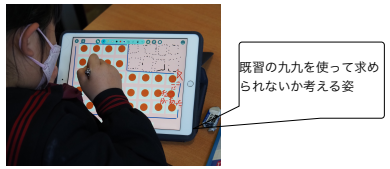


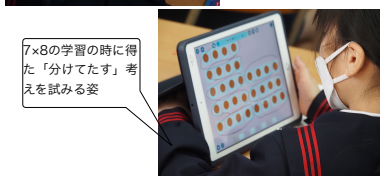
②見通し（予想）を交流し、課題をもつ



「Ⅱ問題を解決」するプロセス「まとめ・振り返りまで」

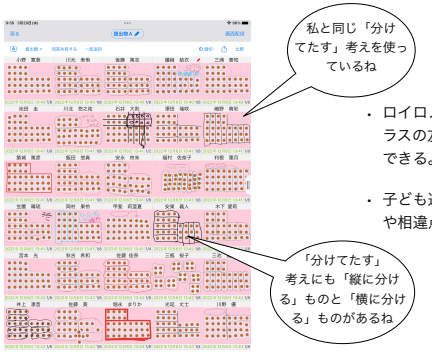
③自己解決場面





- アレイ図に直接自分の考えを書き込むことができる。（加工のしやすさ）
- 考えの修正もロイロノートのシートの上では容易に行える。（修正の容易さ）
- 同じシートを複製して、複数の考えを練ることができる。（複製の容易さ）

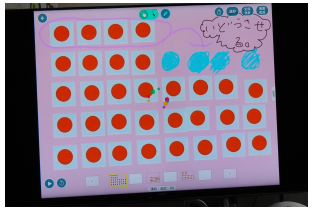
④考えを共有する場面



- ロイロノートの回答共有機能を使えば、クラスの友だちの考え方を自由に見ることができる。（情報収集）
- 子ども達は自分の考えと比較して、共通点や相違点を見つけることができる。

④考えを深めていく場面





拡散した情報（多様な考え）の中から、焦点化して深めていく

情報活用能力育成のプロセス

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」し，「Ⅱ問題を解決」する

めあて・課題の位置付け方（問題発見の過程）や、まとめ・振り返りまでの手立て（問題解決の過程）を工夫すれば、ねらいが達成（情報活用能力が育成）されるだろう。

【討議の柱（仮説）】

Ⅰ　ねらいへと向かわせるための，めあて・課題の位置付け方（問題を発見）

Ⅱ　ねらいに迫る手立ての効果（問題を解決）



ねらいの達成（情報活用能力の育成）に向けた効果的な手立て

教師

児童

Ⅰ 問題の発見





ねらい（資質・能力）



Ⅱ 問題の解決

外国語

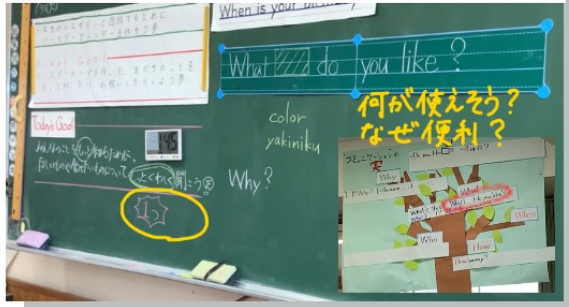
特別活動の時間の目的の設定



デモを通した会話の流れと目的の共有



既習表現を活用した問題解決の見通し



教師



Ⅰ 問題の発見



児童



誕生日に欲しいものや食べたいものの理由について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。

Ⅱ 問題の解決



学びの振り返りと評価の充実

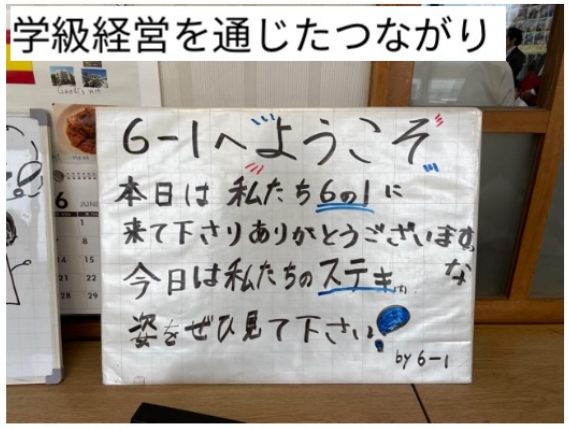
中間指導②その他の疑問文・困りの共有





中間指導①What〇〇do you like?

総合







教師



児童



Ⅰ 問題の発見

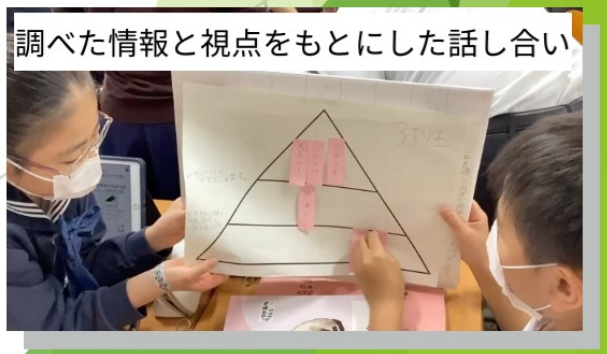


今年度の総合的な学習の時間の学習材について、視点に沿って学習材の特徴を比較しながら考え、選ぼうとすることができる。

Ⅱ 問題の解決





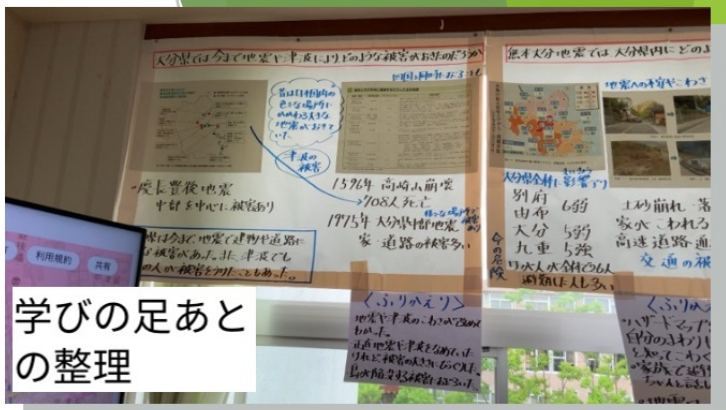


社会



指導要領をもとにしたねらいの設定


学校外の人とのつながり


学びの足あとの整理

Ⅰ 問題の発見

教師



児童

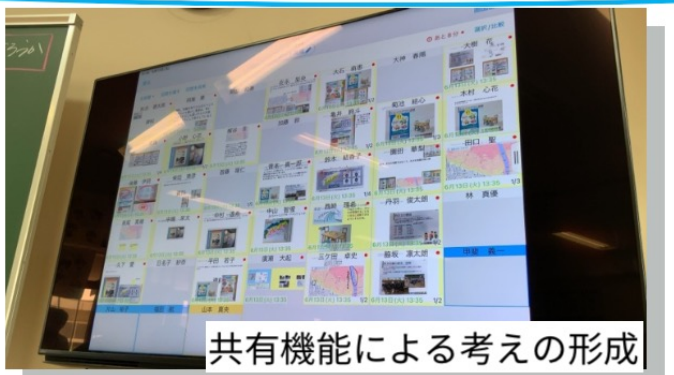




防災危機管理課のTさんが防災意識を高めようとする理由を話し合い、自助の重要性を考え表現することができる。

Ⅱ 問題の解決


カリマネによる活用の場の設定


共有機能による考えの形成


資料の活用による問題解決的な展開

体育


問題解決に繋がるウォーミングアップ


活動の流れの整理


ICTを活用したモデルの動きの共有

教師



Ⅰ 問題の発見



ボールを受けるための動きについて、工夫を考えることができる。

児童



Ⅱ 問題の解決


次時へと繋がる振り返り


ICTによる動き方の工夫の交流


動きを通しためあての理解

算数


既習を活かしたウォーミングアップ


活動を通した問題への気づき


ICTによる問題の焦点化

Ⅰ 問題の発見

教師





和が10以下の加法の計算について、式どうしを比べたり、式と答えを関係づけたりした計算のきまりを考えている。

児童



Ⅱ 問題の解決


系統性を見通した指導


ねらいに沿った発言の解釈と整理


例題を通した問題解決の見通し

道徳


生活経験を踏まえた導入


活用を意図しためあての設定


問いに関わる資料事実の確認

教師



Ⅰ 問題の発見



節度ある生活をするために大切なことについて、度を超すことなく生活していこうとする判断力を育てる。

Ⅱ 問題の解決

児童




立場によらない価値のおさえ


道徳的価値に沿った意見の整理


多面的・多角的に考えられる問い

R5研究テーマ中間のまとめ　８．２９

情報活用の土台となる学級経営

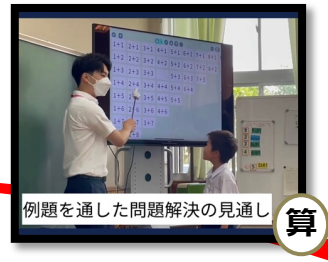
・良好な関係性のもと，問題発見・解決に向けた情報交換が円滑に行われているか

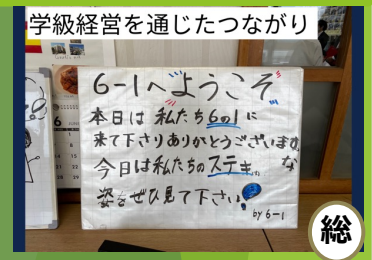












・与える情報の範囲を適切に設定
（<u>問題のまぐちを広く設定</u>，かつ，<u>解決の見通しが持てる</u>ように）
・児童の<u>生活経験や既習内容</u>に沿っているか（問題との出合わせ方）



教師

Ⅰ 問題の発見



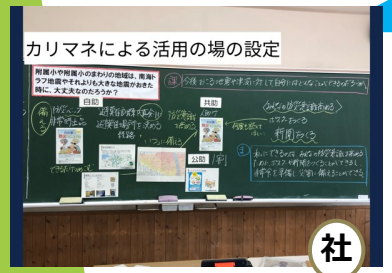
Ⅱ 問題の解決

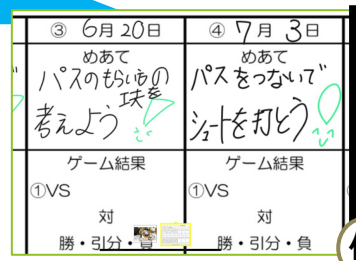
児童



・どのように<u>情報を比較・整理</u>させるか
・<u>次の学び</u>にどうつながるか

・与えられた問題や解決の見通しをもとに，<u>解決法を選択したり自分たちで見つけたり</u>しながら考える
・一方的ではなく，主体的に考える

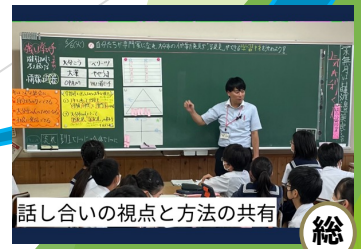














ねらいの達成（情報活用能力の育成）に向けた効果的な手立て

既習や生活経験を活かす

他教科と関連させて広く意義ある問題を設定する

視点やモデルなどにより解決の見通しを持たせる

教師

児童



Ⅰ 問題の発見



ねらい（資質・能力）



Ⅱ 問題の解決

視点を明確にして振り返りをさせる

ペア・グループ等の協働的な学びを仕組む

考えを適切に板書に位置付け、思考を整理させる

深める問い・中間指導等の価値づけを入れる

R5.4.25
事後研の進め方

【単元の指導計画作成と学習評価の充実】

「児童観」　「教材観」　「学習指導要領の解釈」
「単元ゴール・各時間のめあて」　「単元・各時間の評価規準」

授業実施前



授業前半

Ⅰ　ねらいへと向かわせるための，めあて・課題の位置付け方

「既習の活かし方」

「資料提示の順序・タイミング」

「解決の見通しの持たせ方」



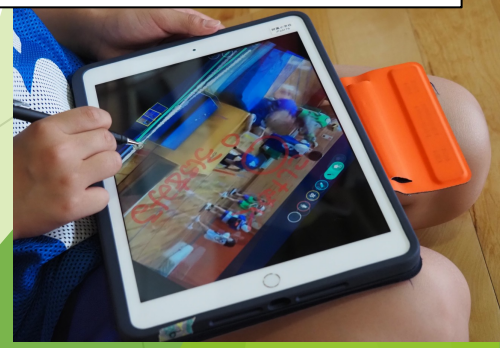
【ICTの効果的な活用】
（TV,教師用iPad）

あらかじめ想定された要素が見出されている

Ⅱ　ねらいに迫る手立ての効果

「考えのまとめさせ方」「児童の発言の解釈」
（ワークシート・教具）

「板書への位置付け方」「話合わせ方」
（思考ツール）　（学習形態・教具）



【ICTの効果的な活用】
（１人１台端末）

【学習評価の充実】
（適切な見取り）

次時

このような研究成果・まとめに対して思うこと・・・

一般的に効果的と言われる手立てを見出すに止まっている
→研究方法から見直す必要性があるのではないか？

ねらいの達成（情報活用能力の育成）に向けた効果的な手立て

既習や生活経験を活かす

他教科と関連させて広く意義ある問題を設定する　　視点やモデルなどにより解決の見通しを持たせる

教師　　児童

Ⅰ 問題の発見



ねらい（資質・能力）





Ⅱ 問題の解決

視点を明確にして振り返りをさせる　　ペア・グループ等の協働的な学びを仕組む

考えを適切に板書に位置付け、思考を整理させる

深める問い・中間指導等の価値づけを入れる

これまでの授業研究→自然科学的な方法を教育学に援用

*A*ならば*B*である

仮説：物が上から下に自然に落ちれば、
　　地球には重力が働いている

検証：りんごが自然に落ちれば地球には
　　重力が働いている
　　りんごA○
　　りんごB○
　　りんごC○
　　・・・

結論：～回も同じ結果！仮説は信頼できる！



これまでの授業研究→自然科学的な方法を教育学に援用

*A*ならば*B*である

仮説：**効果的な手立て**を講じれば、**ねらいを達成**（情報活用能力を育成）できる

検証：**既習を活用する**と**ねらいの達成**につながる

授業A○

授業B○

授業C○

・・・

結論：～回実践された！　**既習の活用は効果的！**



これまでの授業研究→自然科学的な方法を教育学に援用

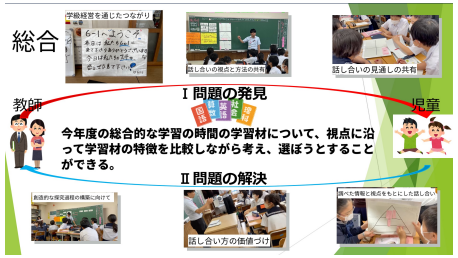


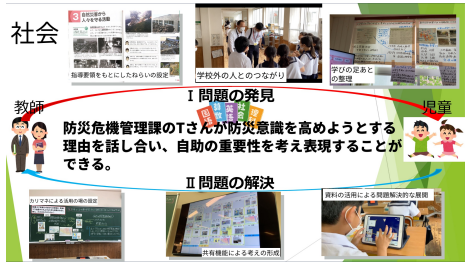
教育学

再現性・一般性＝誰がやっても同じようになる

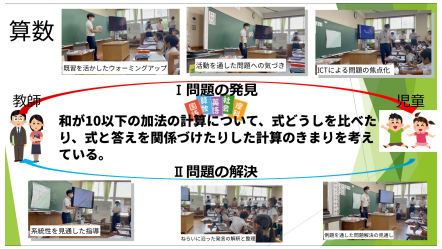
効果的な指導技術やプログラムを見出すのに適している

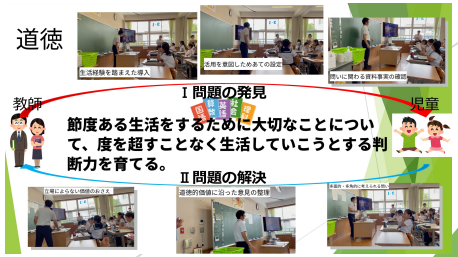












・・・

回数を重ねる程信頼性が増す

・・・

教育学と自然科学の根本的な違い・・・



教育学



≠



自然科学



意思・習慣や経験等による学びの多様性＝同じようにはならない

「教育研究」を深め、学びの質を高めるためには、
「子ども」の「学びの多様性」に目を向ける必要がある

参考：稲垣忠彦・佐藤学（1996）「授業研究入門」岩波書店．250p

「一般化された理論」に当てはまらない子どもの「学びの多様性」



既習の内容をつなげて考えたことで「人物（みささきさん）は４人に含まれる」と捉えた児童が、４＋６＝１０と考える。

多様性＝「C児」でない　高度な思考と深い問いを持っている

「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その１「本時と次時」

①授業実践：教師の問題発見

討議の柱１「効果的な手立てと次の展開につながる学びの姿」

既習や生活経験を活かす
他教科と関連させて広く意義ある問題を設定する　　視点やモデルなどにより解決の見通しを持たせる

教師　　児童

Ⅰ 問題の発見



Ⅱ 問題の解決

視点を明確にして振り返りをさせる
ペア・グループ等の協働的な学びを仕組む
考えを適切に板書に位置付け、思考を整理させる
深める問い・中間指導等の価値づけを入れる

②事後研：教師の問題解決

討議の柱２「次の展開・手立ての案」





学びの姿を焦点化

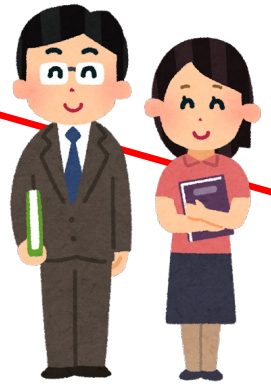


次の授業
実践へ

参観者



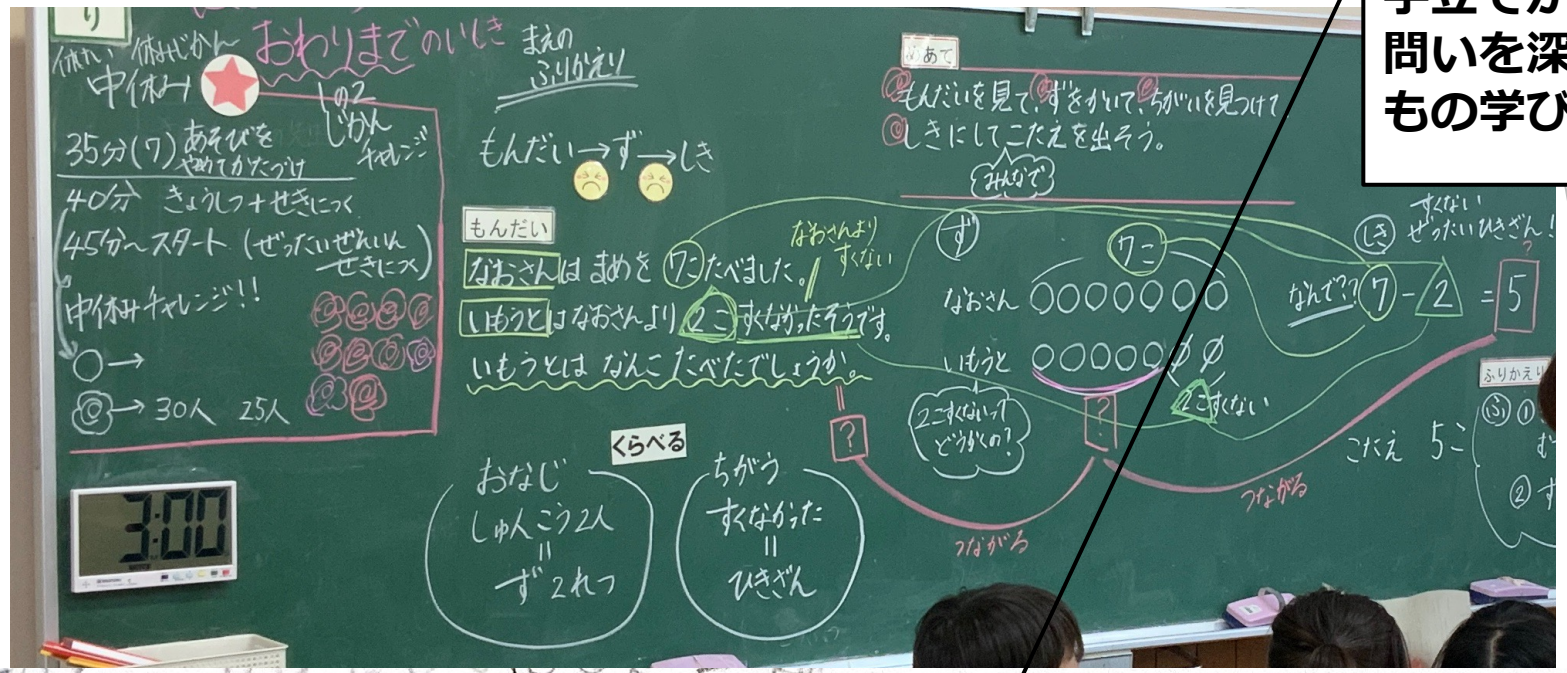
授業者



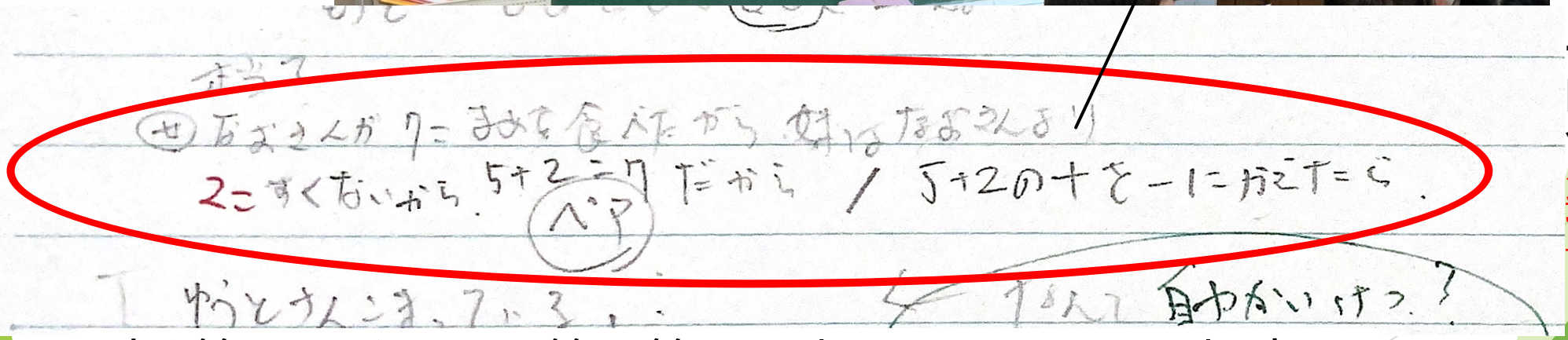
上記のような
「学びの姿」を軸にした授業研究では、
「参観者」と「授業者」双方に、
より高いレベルの力が求められる。

教師の問題発見（参観者）に求められる情報活用能力：資質・能力を通して多様な学びを見取る力





手立てが適切であればあるほど，問いを深めるための多様な子どもの学び姿は，見えづらくなる



子どもの姿を解釈する際に、主観の押し付け合いにならないために資質・能力を通して学びを見取ることが重要

引き算でなく、足し算で答えを出そうとしていた児童の考えが、ペアワークによって消えてしまっていた。

教師の問題発見（授業者）に求められる情報活用能力： 次時に問いをつなげる力





想定通りに授業が進まなかった場合、その時間内にねらいを達成するために教師が無理にまとめるのではなく、未解決の子どもの疑問を次の時間の指導に活かす。

教師の問題発見（授業者）に求められる情報活用能力：　次時に問いをつなげる力





「事後研の議論の食い違いの解消」

- 国語
- 生活、総合
- 外国語（記録に残さない）
- その他、数時間にまたがるねらいを設定した授業

参「ねらいに達していない（と言わざるを得ない‥）」
授「先の時間で達すればいいのに‥」

6（本時）・7・8	◆自分が選んだ好きな物語のお気に入りの場面について、たくさんの人と交流したり、二年生に紹介したり、視点をもって振り返ったりすることを通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。			
	○自分が選んだ好きな物語のお気に入りの場面について、ロイロノートにある自分が選んだ好きな物語を音読しながらお気に入りの場面に印を付けたり、お気に入りの理由を登場人物の会話や行動などを手掛かりに伝え合ったりして、共有する。 ○ロイロノートを活用して好きな物語の「おきにいりカード」を作成する。 ○全員が安心して交流できるように困りや悩みを共有し、解決方法を考える。 ○前時までに学んだ気持ちのよい交流の仕方（交流の仕方や交流する時の態度など）について確認することで、全員で気持ちのよい交流をしようという意欲を高める。 ○自分が選んだ好きな物語の「おきにいりカード」を使って、お気に入りの場面を音読したり、お気に入りの理由を話したりしながら、紹介し合い、感想を	○①〈発言分析・行動分析・記録分析〉	○①〈発言分析・行動分析・記録分析〉	○①〈発言分析・行動分析・記録分析〉

◆誕生日の尋ね方を知り、そのための表現に触れるとともに、単元の見通しをもつ。

○Classroom English practice

○単元を通した目標について知る。

バースデーカードを作って、友達のことをもっと知ったりお祝いしたりしよう

○本時のめあてについて知る。

みんなの誕生日を聞こう

○Small Talk
：HRT と ALT のやり取りを通して、誕生日についての具体的な表現を聞き取る。

1 ○Let's Listen
：HRT や数名の児童とのやり取りを通して，誕生日を尋ねる表現や好きなものの言い方を何度も聞いたり言ったりする。

[Key Stage 2 24 Twelve Months of the Year]

○Let's Talk
：友達の誕生日を尋ねよう。

［想定される児童の姿］
C1：When is your birthday?
C2：My birthday is April 5(th).

本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。

数時間にまたがって、または、その先の時間でねらいを達成することが目指されるべき

「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その１「本時と次時」

①授業実践：教師の問題発見

討議の柱１「効果的な手立てと次の展開につながる学びの姿」

既習や生活経験を活かす
他教科と関連させて広く意義ある問題を設定する　　視点やモデルなどにより解決の見通しを持たせる

教師　　児童

Ⅰ 問題の発見



ねらい（資質・能力）

Ⅱ 問題の解決

視点を明確にして振り返りをさせる
ペア・グループ等の協働的な学びを仕組む
考えを適切に板書に位置付け、思考を整理させる
深める問い・中間指導等の価値づけを入れる

②事後研：教師の問題解決

討議の柱２「次の展開・手立ての案」





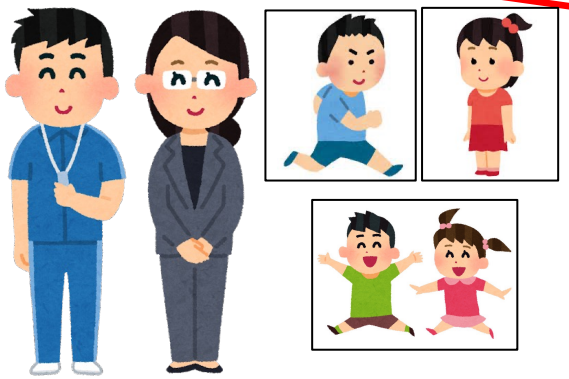
学びの姿を焦点化



教師

次の授業実践へ

参観者



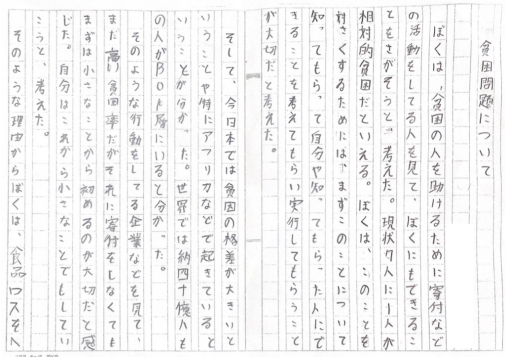
授業者



次時に問いをつなげる力

資質・能力を通して多様な学びを見取る力

「学びの姿」を軸にした授業研究では、より高いレベルの教師の情報活用能力を見出すことが可能になる。



「単元のねらい設定・単元構想」
教師の情報活用能力そのもの













「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その２「単元と単元」

「先の単元を作るカリマネ・単元構想タイム」

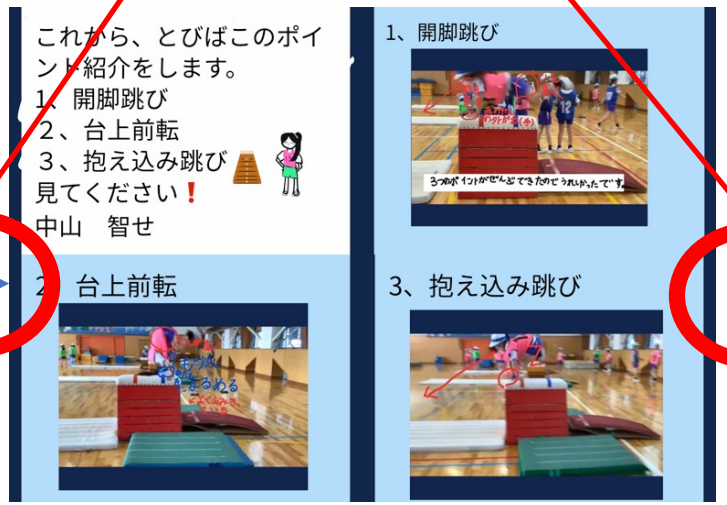


①５・６月体育
跳び箱のコツを伝えよう



内容

②７月国語
コツを伝える原稿を書こう



資質・能力

③２月総合
思い出を伝える原稿を



内容

（思い出は擦り染です。）

ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。

「自分の考え」台上前転の１番のポイントはおへそを見ることです。
「事　　例」これを見てください。おへそを見ていないと体を丸めることができず，うまく跳び箱の上で回ることができないため、体がはみ出してしまいます。
「理　　由」おへそを見ると，体を丸めて回り，うまく着地することができるので，大切なのです。

「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その２「単元と単元」

①５・６月体育
跳び箱のコツを伝えよう

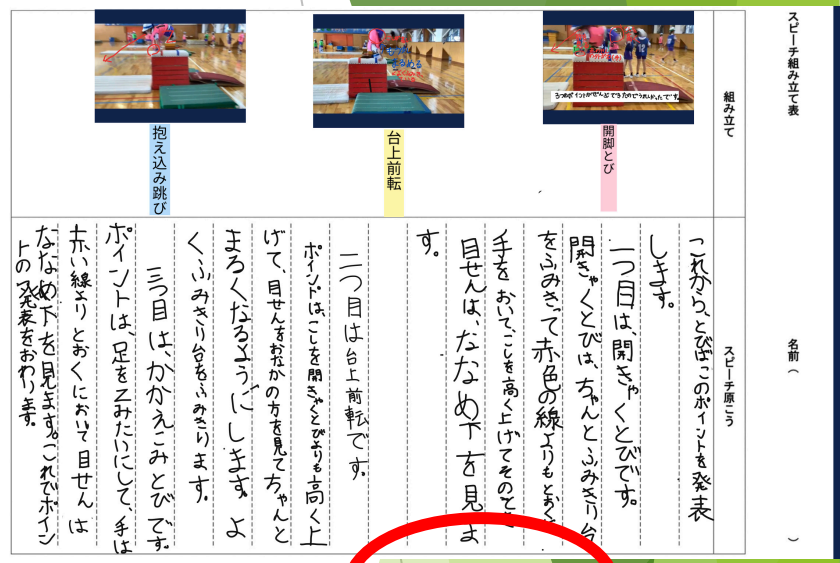


内容or資質・能力



校内研修
カリマネ・単元構想タイム

②７月国語
コツを伝える原稿を書こう



内容or資質・能力

ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。

「自分の考え」台上前転の１番のポイントはおへそを見ることです。
「事　　例」これを見てください。おへそを見ていないと体を丸めることができず，うまく跳び箱の上で回ることができないため、体がはみ出してしまいます。
「理　　由」おへそを見ると，体を丸めて回り，うまく着地することができるので，大切なのです。

資質・能力を見通しつつ、単元構想を行う工夫

国語科年間計画　2023　1年生

スタカリ連動　生活科等他教科＆成長ノート　漢字　音読　常時活動

上

		教材	資質・能力	言語活動	関連・備考
1	ス	なかよしのき	C		
2	ス	たのしいいちにち	A ウ		
3	ス	わたしのなまえ	A ウ	自己紹介	
4	ス	おはなしたくさんききたいな	知・技（3）エ：読書	読み聞かせ	
5	ス	こえのおおきさどのくらい	A ウ		
6	ス	かいてみよう	知・技（1）ウ：話書言葉		
7		こえをあわせてあいうえお	知・技（1）ク：音読	音読	手拍子、たけのこ、スピードコントロールなど
8	ス	あいうえお	知・技（1）ウ	ひらがなをかこう	
9		みつけてはなそう、たのしくきこう	A オ	フリートーク	相手の話に反応を返す（頷き・相槌・質問・感想）
10	ス	かき、かぎ	知・技（1）ウ：濁音・半濁音	ひらがなをかこう	助詞「が」、句読点の使用
11		ことばをあつめよう	知・技	テーマ別言葉集め	ひらがな学習後ゲーム形式
12	★	くまさんとありのごあいさつ	C イ	豪華版	
13	ス	ねこ、ねっこ	知・技（1）ウ：促音	ひらがなをかこう	助詞「は」、句読点の使用
14	ス	ほんをよもう	知・技	図書館で本を借りよう	
15	ス	ことばをつなごう	知・技（1）オ：語彙	ひらがなをかこう ○のつく言葉	助詞「を」、句読点の使用
16		たのしくよもう	知・技（1）ク：音読	音読	交互、たけのこ、動き、バトルなど
17		ごじゅうおん	知・技（1）ウ	ひらがなをかこう	口形、書き書きバトル
18	★	けむりのきしゃ	C エ	豪華版	
19	ス	のばすおん	知・技（1）ウ：長音	ひらがなをかこう	
20	★	せんせい、あのね	B	作文	生活、成長ノ
21	★	みんなにはなそう	A ア	フリートーク	話題から話す内容を決める
22		たのしくよもう 2	知・技（1）ク：音読	音読	交互、たけのこ、多種姿勢、バトルなど

おおかみ
おおやけ
こおり　ほのお
こおろぎ
おおい　おおきい
とおい　おおむね
おおよそ
とお　とおる
ほお　ほおずき
おおう　こおる
とどこおる
いとおしい

資質・能力を見通しつつ、単元構想を行う工夫

「６年　社会科でつけたい力」

【授業をどう進めるか】

授業の出来映え



教師の考えた授業構成の中で、
① 子どもたちは単元の目標を達成できたか
② この学習を通して「読・書・計・話・聞」などの学習能力を高めたか
③ そのクラスの学習規律が高まったか

↓

(例) 単元のねらいがわかった、できるようになっただけでなく、「ノートが前よりきれいに書けるようになった」「発言がしっかりできるようになってクラスのみんなに認められた」「司会がうまくなった」などの学習能力や学習規律。

①だけを授業の評価にすると、毎時間新しいことを教えるので、1/3または半分近くが理解できずにモヤモヤし、毎時間、像だけになってしまう。そうするとバランスのよいクラスはできない。そうではなく、学習規律や学習能力の高まりも注意深く評価し、励ますようになった時、子どもたちは授業を自分たちの人格を鍛えてくれる時として真剣に取り組むようになる。

①だけの達成をめざす授業は、子どもたちのすでにある能力や知識を肯定し、満足させているだけの授業に陥る危険もあり、鍛えるのではなく、甘やす授業に陥りやすい。

授業のパターン

① 知識のネットワーク作り（10分）
② 音読による全体把握（5分）
③ 教師の発問に対する資料からの類推（20分）
　＜厳しい個別化＞＜豊かな交流＞
④ 学習したことの確認（5分）
⑤ 「今日学んだこと」の発表（5分）

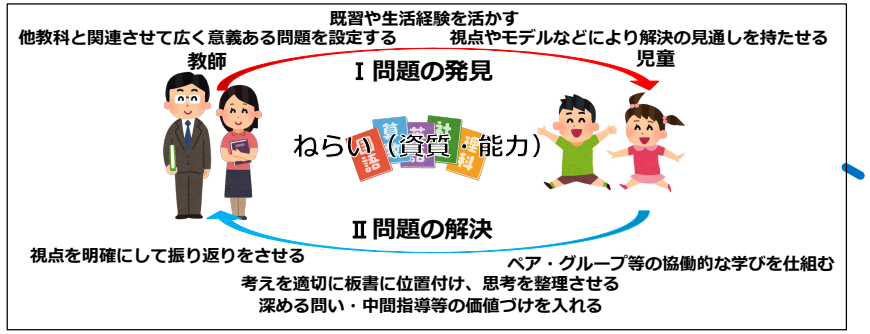
単一の資料
↓
複数の資料
↓
推論
↓
事実

※ 始めの1回目
(予) 音読 (授) 教師が問いを出す
(予) 教師が2回目問いを朗読 (授) 発表
(予) 友達に質問する形で朗読 (授) 資料を読み取る

教師が火付け役となりブームをつくる。
(例) 今回は縄文時代の勉強をするぞ。
　↳ 何を食べてた？ どんな家に住んでた？
次は弥生時代をするぞ。「班の人に質問をつくってこい！」

「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その１「本時と次時」

①授業実践：教師の問題発見
討議の柱１「効果的な手立てと次の展開につながる学びの姿」



②事後研：教師の問題解決
討議の柱２「次の展開・手立ての案」





学びの姿を焦点化

次の授業
実践へ



**単元のねらいをもとに
本時の学びの姿を
次時の手立てに繋げる力**

「学びの姿」を軸にした教師の情報活用と探究の過程　その２「単元と単元」

①５・６月体育
跳び箱のコツを伝えよう

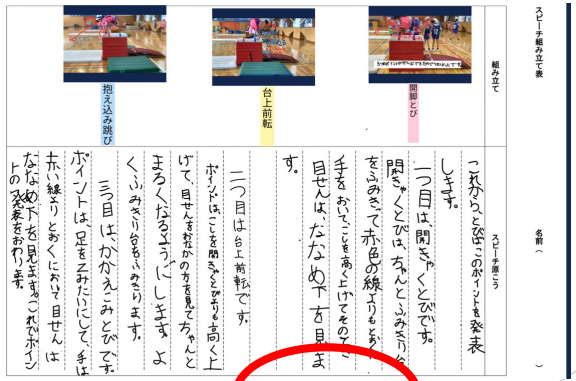


内容or資質・能力



校内研修
カリマネ・単元構想タイム

②７月国語
コツを伝える原稿を書こう



内容or資質・能力

**単元のねらい設定のため
単元の学びの姿を
次の単元につなげる力**

「小学校学習指導要領解説　総則編ｐ48」

（1）学習の基盤となる資質・能力（第１章第２の２の(1)）

イ　情報活用能力

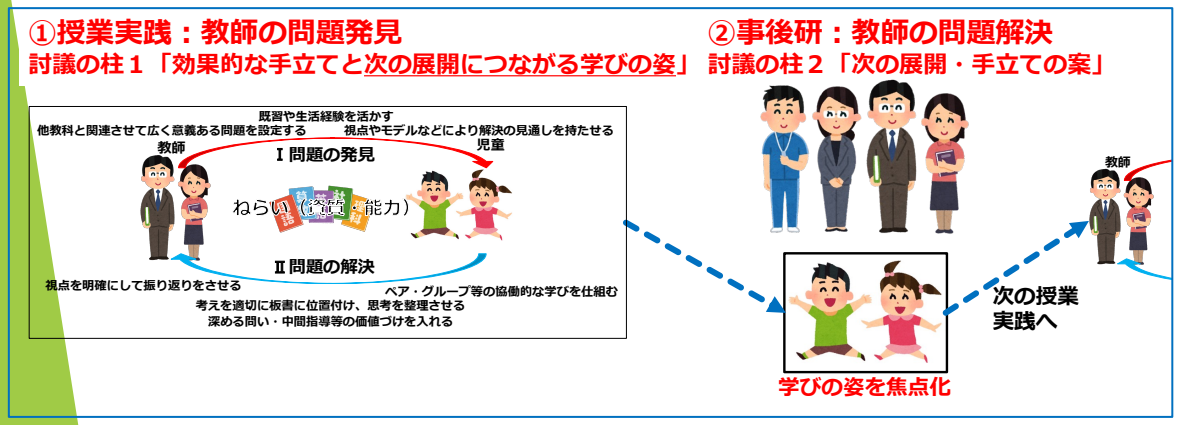
情報活用能力は，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切に活用したり，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な能力である。将来の予測が難しい社会において，情報を主体的に捉えながら，何が重要かを主体的に考え，見いだした情報を活用しながら他者と協働し，新たな価値の創造に挑んでいくためには，情報活用能力の育成が重要となる。また，情報技術は人々

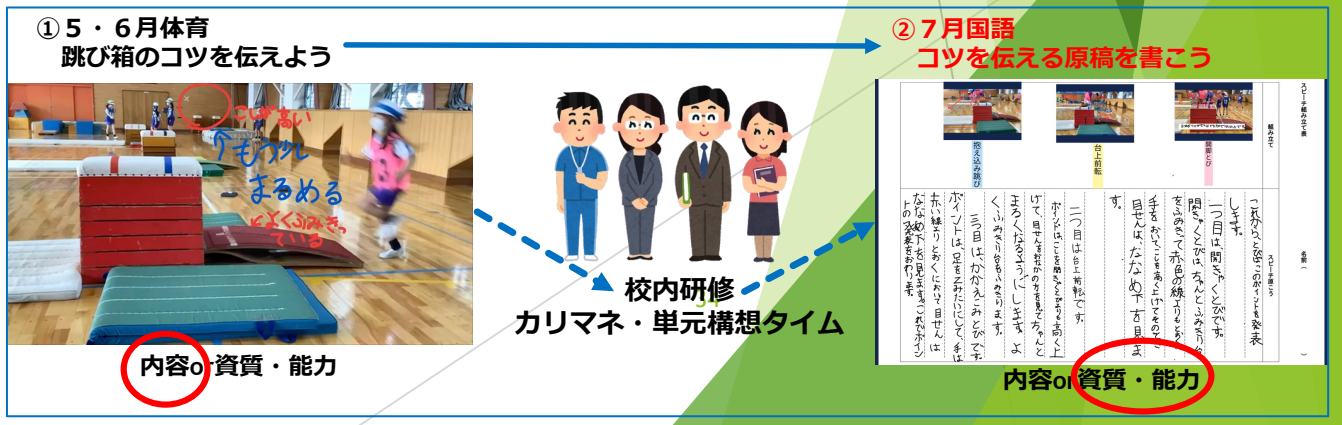
授業・教育

資質・能力
多様な学びの姿

事後研
カリマネ

手立て・
単元構想





引用・参考文献

・文部科学省（2017）.「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編」東洋館出版,263p.
・稲垣忠彦・佐藤学（1996）.「授業研究入門」岩波書店,250p.
・水落芳明・阿部隆幸（2018）.「これで、小学校外国語の『学び合い』は成功する」学事出版株式会社,131p.